

## 大分県高校生防災リーダー研修会視察で交流と「まち歩き」を実施

8月12日(水)、大分県「高校生防災リーダー養成事業」研究視察で大分県の高校生の代表4名らが視察に訪れ、交流活動と「まち歩き」ボランティアを実施しました。

大分県では、県立高校の「高校防災リーダー養成事業」として、は東日本大震災の被災地(宮城県、岩手県)において、震災遺構の見学や語り部からの聞き取り、現地学習会(DIGなど)、先進地訪問を通じて、大規模災害の状況や事前の防災対策の重要性、復興に向けた取組などを体験的に学習することにより、防災意識の向上、基本的知識の習得を目的に東北で研究視察を実施。本校には、大分県立竹田高校、杵築(きつき)高校、臼杵(うすき)高校の高校生4名ほか引率の先生方計12名が来校しました。

はじめに、牛来校長より歓迎のことばと災害対策・防災減災教育の意義などが話され、続いて生徒会による学校紹介、そして、災害科学科を代表して村上真綺(3年)・吉村綾華(3年)さんらによる課題研究の成果の発表がありました。

本校に移設した災害仮設住宅を見学した後、本校が行っている「まち歩き」ボランティアを実施。災害科学科の門脇孝太郎さんが中心となり震災当時の様子や津波波高標識設置活動について説明を行いました。

新型コロナウイルス感染予防対策をする中、炎天下の活動に皆汗をかいていましたが、熱心な質疑や意見交換を通じ、充実した活動となりました。

